

総合教育会議 (2017.5.17) 答へに→

1. 辻重太郎 前市長の「男の約束」(2016.12.4)

- ① 諸計画の「見直し」
- ② 「丹(まにろ)の合併」を実現

2. 「シティ・プロモーション」に昇華

- ① 大風呂敷 → 「私という人間を信じていた子ども」
- ② 託された「4年間のロードマップ」
バックキャスト法 2019年に照準、Xの成果
- ③ 単なる「観光誘客PR」ではなく「画期的・斬新さ」
- ④ キーワード「市民総参加」... 「開かれし」

3. 「但馬(条件不利)で地方創生が実現できなければ...」

- ① 「但馬 理想の都の掟典(1994)」20周年記念事業、提案
- ② 「ふ会い・感動・夢但馬」(2014)の実現

4. PTA活動でひびく

- ① 自尊感情を育てる。
- ② 「全ての子どもが幸せになってほしい」真に思った瞬間

5. 地域の誇り 「知子」→「行動知子」(知行合一)

- ① 豊岡の子どもたち 「身土不二(しんどじ)」 「汽水(スイスイ)」
→ 環境問題に深い関心 (コラトリ)
- ② 「ようこそ先輩!!」 柳田敏雄氏、鴻谷佳彦氏
出前授業 小学生からの提案 (2017.1.27 黒井小)
- ③ 「トイヤとウィー」は工夫

『丹波市長になること』とは? 心の軌跡 8step

(2017.4.15)
たけし

① 厳しい将来展望

歴史上類例のない
人口減少、少子高齢化、
過疎化のスピード

② 立候補した理由^{わけ}

「二度とない人生、ちゃう?
（胸が）胸はこぼれちゃうぞ」

③ 清水の舞台

「覚悟」死ぬる気!!
「責任」無念の思いをした
方々の分まで

④ 市長のカタチ

「率い」⇒「寄り添う」
洞察力「これからどうなる?
どうある?」

⑤ キーワード「交流」

「奪い合う」のではない
・お互いに友人(親友)を増や
・孤立しない、させない!!

⑥ 辻重五郎市長の教訓

- (i) 計画づくり⇒「見える化」
- (ii) 丹(波)の合併・実現

⑦ シティ・プロモーションに昇華

- (i) 市民ムーブメント(気運)の命
- (ii) アツと驚く斬新な手法

⑧ WLB(ワークライフ・バランス)

- (i) 健全な出世欲
スーパー公務員出でよ!!
- (ii) 仕事は「楽しみ」べし
- (iii) 経営感覚
- (iv) 自覚性・内発力

＜広域ネットワーク、軌跡の軌＞

- ・恐竜・おたけ町(北海道)御船町(熊本)
- ・近隣・福知山・朝来・丹波市
- ・但馬・養父(アト村)・朝来(おたけは)
- ・宇宙桜・仁淀川町(高知)淡路島舞島
- ・民間企業との包括連携(00社)
- ・日米交換留学生「夢の架け橋大使」

希望・起る歓喜・働き
感謝に眠る!!

～この4年間の過ごし方～「見える化」「スピード感」「実行力」!!

2017.5.15
水戸ぐら

2017

2018

2019 (丹波市元年)

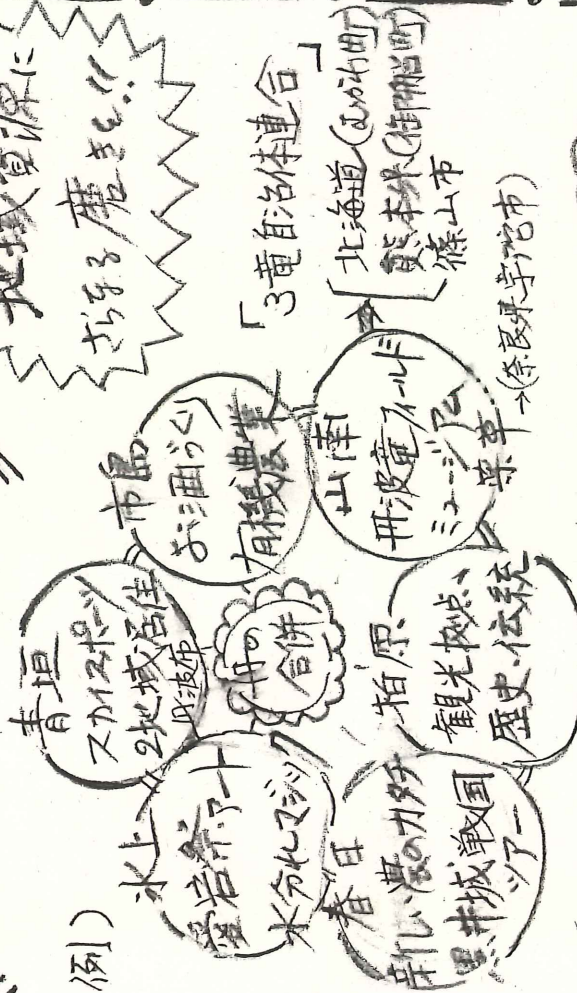
花は実もあふ

(目標)

2020 東条計画ヒック

《6個の真珠のネックレス》

(例)



シンポジウム開始!!

推進協議会(市)に参加!!

知行合一

『多様性のまち』丹波市でチャレンジしませんか

★新庁舎・支所 → (支所見直し)

新病院オープン

◎ 柏原にオール丹波市の
観光拠点(支所活用)

◎ 定住促進ファクトリー窓口

市民活動ファクトリー
＜男女共同参画センター＞

たんば農の学校

丹波竜ファクトリー
構想の具体化(青字真)

認定こども園(柏原)

水方資料館リニューアル

丹波市歌・検定

《トリプル3実現》

- ・観光客 300人(現210)
- ・婚姻 300組(現270)
- ・企業誘致メール 3件

《まじろ合併》

- ・自治協議会の交流促進
- ・新しい自治組織のあり方

《住みかたランキング up》

- ・北近畿 No.1
- ・移住者の増加

◎ 跡地活用

- ① 小学校(青垣)
- ② 両病院

新庁舎 基本構想・要検討

空中戦

《異色の広域連携》

- ・ 旭産 (北海道・熊本)
- ・ 宇宙村 (高知)
- ・ 兼草 (奈良)
- ・ 包垢連携 (企業・大学)

全国公募

アツく驚く斬新な提案群!!

異能

集団

2017~2019

(施設せいで)

- ・ 有原観光拠点
- ・ 市民プラザ
- ・ 男女共同参画センター
- ◎ 統合新病院
- ・ 豊の学校
- ・ 水方コミュニティ
- ・ 市民活用農泊
- ・ 認定こども園

丹波市民の自信・内聚力
品格・モチベーション UP!!

市民総参加

【推進協議会】

2019
ワークロード
キャンペーン
爆発的
成果

6回連続ネット

発掘・研磨・発進

黒井城

お酒造り

6次産業化

丹波市

地上戦

市民グループ

冠

イベント群

愛宕祭

ユース丹波市歌

スロート大会

2020
以降
掲載

self esteem

「果議会訪問でも丹波市の子どもは引込み思案」

丹波新聞

(3) 2009年(平成21年)10月15日(木曜日)

PTA

「なんで俺らも追っ回すんや」誰にも迷惑かけたくはない
PTA 夜間パトロールで遭遇したシンナー少年たち

視点

「自分には良いところがあると思つか」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦するか」丹波市内の小中学生が、これらの問いに「いいえ」と回答

「自分には良いところがある」と肯定的な傾向が見られるという事実も見逃してはならない。日本、中国、アメリカ、スウェーデンの中学3年生を対象に、「自分に積極的な評価をしているか」を聞いた調査

「そうは思わない」と否定した割合が他の国では70～80%あったのに対して、日本では半数にも満たなかった。

自己主張を抑える国民性を反映した回答だと好意的に理

自尊心の低い子ども

した割合が全国平均よりも上回るとい調査結果が出た。なぜ、そんなのか気になる。ここではあるが、わが国の子ども全体が外国に比べて、否

によると、中国では92%、スウェーデンでは83%、アメリカでは77%が「している」と答えたのに対して、日本は40%に過ぎなかった。また、「自分を誇れるものがあるかない」という項目に対して、

解できなくもないが、日本の中学生は、他国の中学生に比べて、自分に自信が持てずにいると推測せざるを得ない。それは中学生に限らず、小学生も同様だろう。とすれば、子どもの自尊心をおとしめ

るものが、この国にはあるということになる。自尊心の低さは、大人社会も含めた日本社会の縮図と言えそうだ。ベストロッチ賞を受けた但馬出身の教育者、東井義雄氏は「中学校などの成績は、頭のよしあしの違いや、学力の違いなどよりも『志』のあるなしが基本である」と説いた。志を育て、志を持つことが、とんじ、「志」という言葉を古めかしく感じる現代の空気が、自尊心の低下につながっているように思えてならない。

(荻野祐一)

安藤広太郎

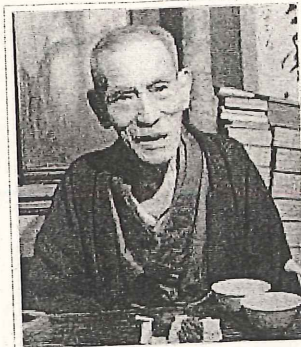
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

安藤 広太郎(あんどう ひろたろう、1871年9月15日(明治4年8月1日) - 1958年(昭和33年)10月14日)は、明治から昭和期における農政家、農学者。農学博士^[1]。

加藤茂苞との共同研究で、世界で初めてイネの人為交配による新種の作成に成功したことで知られる。九州帝国大学、東京帝国大学農学部教授を併任、農商務省農事試験場長、内閣顧問。文化勲章受章。

略歴

- 1871年(明治4年)8月1日 - 安藤久次郎の長男として兵庫県氷上郡柏原町石田(現在の丹波市)に生まれる
- 1888年(明治19年)9月 - 第三高等中学校予科補充科2年入学
- 1891年(明治24年)9月 - 帝国大学農科大学予科4年級転入
- 1892年(明治25年)7月 - 同校卒業
- 1892年(明治25年)9月 - 帝国大学農科大学農学科入学
- 1895年(明治28年)7月 - 同校卒業
- 1895年(明治28年)9月 - 農商務省農事試験場勤務
- 1920年(大正9年) - 同試験場長就任
- 1941年(昭和16年) - 同試験場退職
- 1953年(昭和28年)11月 - 文化功労者顕彰
- 1956年(昭和31年)11月3日 - 文化勲章受章
- 1958年(昭和33年)10月14日 - 逝去



1956年



銅像(丹波市柏原町の生家跡地)

旧中45回生 氷上町朝阪出身

渡邊 隆男さん

No.

Date



東海科学専門学校卒。1953年二玄社を創業。社長就任。1994年から日本書籍出版協会理事長、国際出版連合常任理事、アジア出版連合会長、文化庁国語審議委員などを歴任。

先輩芦田均氏の予言

近年、中東紛争をめぐって想起するのは、柏原中学の先輩、第四十七代総理大臣・芦田均さんの予言です。昭和二十九年の関東氷上郷友会には皇居前のクラブに十数名が集まり

りますまい。なぜならば、あれは国家間の利害関係ではなく、民族と民族、異教徒の間で子々孫々、二千年にもわたって血塗られた怨念の争いだからであります。これは永年外

「この新憲法は、わが日本国が、太平洋戦争という極めて大きな犠牲の代償を払って得た『平和憲法』であります。日本国は二度と再び戦争をしないことを誓い、自由と民主主義を高く掲げる世界にも類のない憲法であります。ところで、喉元過ぎれば熱さ忘れる、ということわざがありすが、あと何十年か致しますと、必ずや日本再軍備論が台頭して憲法の改悪が狙に乗るはずであります。私はここでそれを予言しておきますが、断じてそれを許してはなりません」――五十年前のひと駒です。柏陵同窓会の我々は、こういう先輩を決して忘れてはなりません。

母校の進修小で講演

生物物理学者「苦手なこと変わる」
柳田敏雄氏



母校の小学生たちに子ども時代の思い出などを話す柳田敏雄氏=進修小学校で

昨年、文化功労者に選ばれた生物物理学者の柳田敏雄・大阪大学生命機能研究科特任教授が17日、母校の進修小学校で4・6年生たちに話をした。小学校時代、恥ずかしがり屋だったという柳田敏雄氏が、今では5000人ほどを前に話しても恥ずかしくないと言いつつ、「小学生のとき、苦手だったことも大きくなると、変わるものだよ」と話しかけていた。(狹野祐一)

柳田氏は1946年、えいてい説をくぐり、ちがは「すごい」と声を上げていた。春日町柳津の生まれ。筋世界から脚光を浴びた。肉の収縮を担ったたんぱく質の働きを、この日の話では、虫のよう質の間に成功、ノーベル賞を受けた学者が唱え、児童たちの前で話したのは地獄の瞬間だった。先生に「小学校時代、先生に書かす、2学期が始まるとから学校の図書室で徳川家康について書かれたマンガ本を読み、急いで感想文を書いて提出。すると先生にほめられ、みんなの前で発表することになった。最悪だった」と話し、児童の笑いを買った。

生物物理の研究を始めたとき、師事した教授から何も教えてもらえず、「研究は自分でやるもの」と戒められ、自分の力で顕微鏡を作ったエピソードを語り、

3年ぶり自主公演

ダンス教室「ジ・アジア」23日、森公苑で



本番に向け練習に励むジ・アジア・ローズのメンバーたち=氷上住民センターで

山歩き

氷上で発見

氷上町三原と美区清水にまたがれた(817)と家を出て行くといた神戸市西(9)が17日、原の山中で遺体を見つけた、発見者が、発見現場から県の消防防災ヘリコプターで男性を運んだ。男性は15日に家をでて、多町側から山に入ると見られる。日帰りの予定で

新

聞

2014.3.20 丹波新聞

(第3種郵便物認可)

たんばスポーツ

TANBA SPORT

市長コラム
丹波語り
ふるさとを
忘れ得ぬ思い出



新井小学校4年生の時やったかな。大新屋の奥の大池まで校外学習に出かけた時のこと。大変天気の良い秋の午後で、池はすっかり干上がり、底の泥は固まり、色んな形に割れていた。

誰かがポツリと言った。

「〇〇県の形に似てえへんこ？」

「そういうたら、これは△□県みたいやで。」

「そうや！これで日本地図つくってみやへんこ？」

当時のクラスは、大変ノリが良かった。最初は3人ほどだったが、1人増え2人増え…

「関東平野はこのあたり、緑の草を置いとこうつと。」

「信濃川はこのあたりかなあ。」

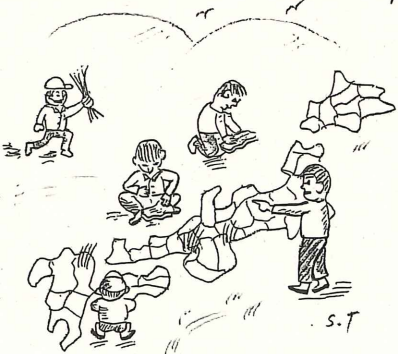
「富士山は日本一の山やさかい。」
1時間程すると土のかげらと草の大きな日本地図ができあがった。1年生から6年生まで、クラス替えもなく、これといっ

たケンカもなく、思い出すほどに微笑ましい6年間。自発的に学ぶ楽しさを体得した瞬間だったと確信する。

昭和30年代、学習教材に恵まれているとは言えない時代だった。けれどふるさと丹波には忘れられない温かい思い出がある。50年以上経っても鮮やかによみがえる記憶を焼き付けてくれた。

「ふるさととは遠きにありて思ふもの…」室生犀星の詩を超越して、Uターンの道を選んだのは実にこの日本地図のせいかもしれない。ちなみに、子どもたちの大土木作業を検分された先生は「よーっ、ええもん作ったのうー！」たいそう感激され、褒めてもらった私たちは鼻高々だった。

丹波市長
谷口進一



市長コラム
丹波語り
恐竜を活かしたまちづくり-約1億1千万年前からの贈り物-



1月15日、NHKの人気番組「ダーウィンが来た！」で丹波竜が取り上げられ、高視聴率を記録して一躍全国に「丹波竜・丹波市」の名が知れ渡りました。放送をきっかけに、全国で「恐竜化石によるまちおこし」を進めている自治体と連携しようと思ひ立ちました。

丹波竜化石の発見者の一人であり、発見場所の上久下地域自治協議会会長の村上茂氏とも相談して「北海道むかわ町」「熊本県御船町」に連携を打診し、両町長から快諾いただきました。

平成28年度に「丹波竜の里」事業が完成し、4月1日に完成式典を行いました。関係者や地域住民など約1,200人が集まり完成を祝いました。「丹波竜の里」をはじめ、恐竜を活かしたまちづくりを市内外へ発信するには、今が絶好のタイミングです。今

後は、篠山市も加えた4市町共同で、恐竜にちなんだ特産品を開発、互いにアイデアを出し合い、自治体の広域連合を組んで情報発信していきます。

人口が減少し、「賑わいが失われていく」ならば、「活躍人口を増やす」「交流人口を増やす」などをし、人が交流する機会を増やす必要があります。むかわ町長・竹中喜之氏からは「恐竜の絆が“未来の翼”として大きく羽ばたくことを強く願います」とメッセージをいただきました。

歴史上まれにみる人口減少期に、約1億1千万年前に生きていた恐竜たちが永い眠りから目を覚ましてくれました。「丹波市の親善大使」としての役割を果たしてくれる彼らに感謝しつつ、思う存分の活躍を期待しましょう。近い将来丹波から恐竜博士が誕生するような予感がしてきました。

北海道新聞 平成29年2月18日掲載



丹波市長 谷口進一

新規採用職員 三訓

1. 健全な出世欲を持つ!!

喜びは挑戦の中にこそあり
挑戦がなければ喜びはない

2. 仕事は"楽しむ"べし!!

なにをやるか？は「調整力」
次はどうやる？ どうやる？

3. あなたと一緒に仕事ができよう!!

どんな職種？ どんな場所？ ではなく
「誰と一緒に仕事をするか」で満足感が違う

※ 地方創生... 札幌は多くない
『チーム丹波市役所』の総合力で
勝負!!

2017. 4. 11 空に送る